

令和2年度 第2回大磯町総合教育会議における協議内容のまとめ

1 協議のテーマ

「人口減少・少子高齢化社会に対応した活力ある学校教育の実現について」

令和2年度の第2回大磯町総合教育会議では、人口減少、少子・超高齢化が進む中、大磯町における小中学校の児童生徒数も今後減少傾向を辿ることが想定されるため、「人口減少・少子高齢化社会に対応した活力ある学校教育の実現について」をテーマに、現在の学校教育を取り巻く環境や、今後の児童生徒数の減少が進むことにより懸念される課題等を抽出し、その解決に向けた手段や方法等について協議・調整を行いました。

2 協議における委員からの意見

協議における委員の皆さんからの意見を以下のとおりでした。

(1) コミュニティ・スクールの推進

- 高齢化社会に対応していくためにコミュニティ・スクールの実践が大切である。
- 地域コーディネーターが橋渡しとなるコミュニティ・スクールを進めるべきである。
- 最も必要であることは、地域と協力・連携した取り組みである。
- 地域とのコミュニケーションを取っていくために、コミュニティ・スクールを進めていくことが近道である。
- 年配の方やリタイアした方に協力していただきたい。
- 若い人たちが教育行政に顔を出せる仕組みづくりが必要である。

(2) 幼小中一貫教育の推進

- 校舎は違っても幼小中一貫で取り組むという方向性をできるだけ早く示すことが必要である。
- 小学校と中学校、幼稚園と小学校との交流を活発に取り入れていく必要がある。
- 学校を単体として考えるのではなく、教員や校舎といった教育資源を共有し融通し合うネットワークでの学校再編を行う。ハブ的な学校さえつくれば、社会福祉施設や医療施設を兼ね備えた複合施設をつくることも可能になる。複合施設には多世代が集まり多世代交流も可能となり、小さな学習拠点で教育の質を確保することもできる。
- 教育の中で幼小中の連携を進めていくことでバランスが取れた教育ができる。

(3) 少人数学級の推進

- 少人数学級は1つのテーマを長く深く学ぶことができる。その中で絆や連帯感もカバーでき、いじめ対策にも効果がある。
- 30人学級を目指すなど、早めに対応して環境を整えていく必要がある。

(4) 人材の育成

- 大磯町に誇りを持ち、役に立ちたい、住み続けたいと思う人材を育てていけるかが鍵になる。

- 現代の世の中で最も求められているものは、「教育は人なり」ということである。
- 心と心のふれあいこそ真の教育である。
- 教育は人づくりであり、そこに力を入れていく必要がある。
- 誇りの持てる町としていくためには、人の心を大切にすることが重要である。
- 先生の指導力を再構築する時間を確保する必要がある。
- 教員に教育における情熱をしっかりと持ってもらう取組みや方法を考える必要がある。
- 真の教育者の発掘と伝承こそが大切である。大磯の偉人も教育者の発掘である。

(5) 教育環境の整備

- 教育環境を良くしていくことを考えなければならない。
- 子どもたちにとって学校が楽しく、好きで心地良い環境づくりが大切である。
- 教員の仕事量が増え続けているので、今後は、本当に必要な行事を選んで実施していく必要がある。

(6) 魅力や特色ある教育の推進

- 他の地域で取り組んでいる人口を増やすための様々な取組みは、時間が経つに連れて成果へとつながるので、大磯町でも取り組む必要がある。
- 大学と連携した取組みを充実する必要がある。
- 若い人たちと何か取り組むことはできないか。
- 大磯町の自然、歴史・文化を生かして、町の拠点として活性化できれば良い。
- 奨励金制度など目玉になる取組みを始めても良い。
- 高齢者との人間関係を学ぶといった大磯ならではの教育を実現してほしい。
- 穏やかで自然環境も良く、子育てしやすい環境である。
- かつては偉人が住み歴史や文化資源も豊富で、全国的に誇れるレベルにある。
- 鳥取県鳥取市の「表驚科」といった特設教科のようなものがあるのも良い。
- 素晴らしい歴史や文化があるにもかかわらず、住んでいる子どもたちが良く分かっていないのでは意味がない。大人になった時に住んでいる町を誇りに思える、誇りに感じられる町にしていくべきである。
- 若い人たちが子どもを育てていくためには、子育てで魅力のあるまちをつくっていかなければならない。
- 将来、義務教育9年間で、子どもたちが誇りを持てる町独自の取組みを考えていくべきである。
- 若い人たちにとっての町の魅力をつくっていかなければならない。
- 子どもたちに夢と希望を与えることで、大人たちにも魅力ある町へとつながる。
- 子どもたちが興味を持てるような多く体験できるような仕掛けをつくっていく必要がある。
- 保護者が何を望んでいるのかということを見極める必要がある。
- 年少人口と生産年齢人口に含まれる若い世代が何を望み、何を求めているのかを考える必要がある。

(7) 積極的な情報発信

- 安全安心で子育て世代に優しく手厚い支援があることを、もっと活発に町外に発信していく必要がある。
- 若い人たちにも訪れてみたい気持ちにさせるような発信が必要である。
- 町の良いところを積極的に発信し、人口の流入につなげてほしい。
- 町民に住むICT関連の方の力をお借りして効果的に情報を発信して、人口の増加に結び付けてほしい。

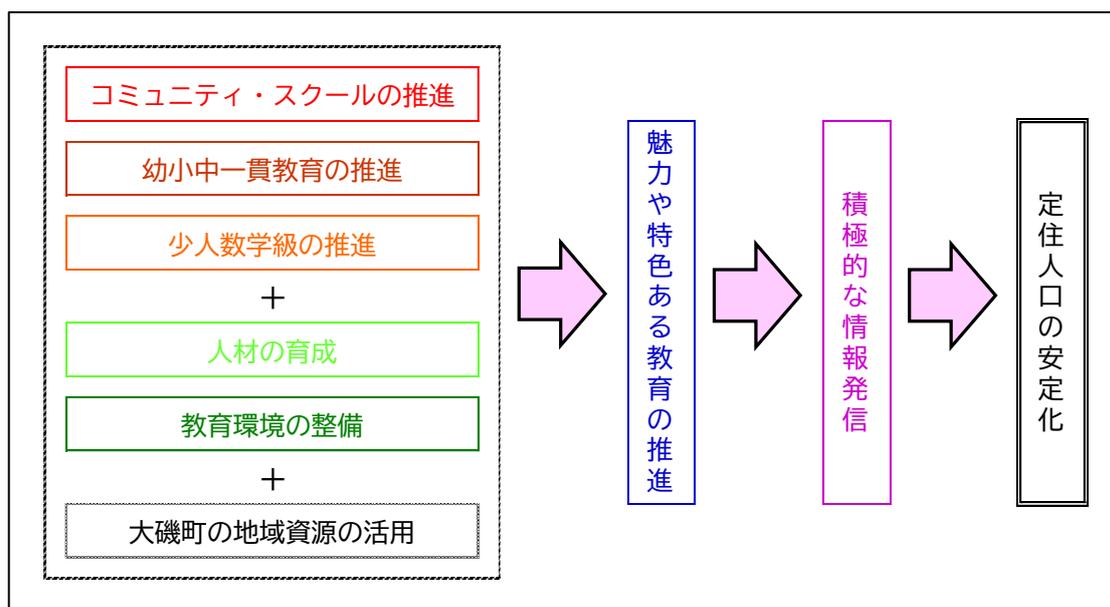
(8) その他

- 子どもたちに夢と希望を与える教育が必要であり、夢と希望を与える施設があると子どもたちに良い影響を与えることができる。
- 不登校児童・生徒の増加、学力の低下、デジタル教育環境の整備が課題である。
- 大磯町では質の高い教育をどうするのかということ、第一に考えていかなければならない。
- SDGsについて、少し掘り下げて議論したい。
- アナログ的な拠点が大磯町にも必要であり、今後加速するデジタル化とのバランスを考えた拠点づくりができれば良い。
- 大学生を中心に大磯町の活性化を考える「大磯まちづくりプロジェクト」のようなものを立ち上げることができればおもしろい。

3 今後の取組みについて

委員の皆さんからいただいた意見を考慮し、次のとおり図にまとめました。

今後は、人口減少・少子高齢化社会に対応するため、「魅力や特色ある教育の推進」や「積極的な情報発信」を意識しつつ、「定住人口の安定化」につなげていけるよう、図の左側に示した取組みを連動させながら展開してまいります。



【図 今後の取組みのイメージ】